

2025 年度 大分県中学校英語教育研究会 研修講座（要旨）2025.9.13 佐脇武志  
テーマ「授業における様々な問題と改善策」

1. 授業における困りを出し合い、その改善策を考える。
2. 「安河内哲也先生の特別講演」から学ぶ ※すごく共感しました。全部見てほしいです。

■アクティブ・ラーニング&カリキュラムマネジメントサミット 2019

You Tube 文部科学省/mextchannel 2019.10.16 より抜粋

(1) 英語の4技能をどう勉強する？

- ① リーディング
  - ・教材をネイティブの音をまねて何度も音読する。
  - ・理解した本文の音声を何度も聞く。
  - ・簡単な英語を多読する。
- ② リスニング
  - ・リーディングと合わせていっぺんに勉強する。
  - ・リスニング問題をたくさん解く。
  - ・ドラマ、洋画、洋楽を活用して楽しく学ぶ。
- ③ スピーキング
  - ・授業での活動にどんどん参加し、英語を使ってみる。
  - ・自分の意見を日本語でも言う習慣をつける。
  - ・オンライン英会話などを活用してたくさんしゃべる。
- ④ ライティング
  - ・AI 添削や機械翻訳と上手く付き合う。
  - ・日本語でも面白いことをいつも考える。
  - (主張⇒理由⇒事例・証拠)
  - ・SNS 等で英語をたくさん使う。
- ⑤ グラマー
  - ・実際に使うルールを優先して学ぶ。
  - ・例文を音読暗唱しながら学ぶ。
  - ・自分の言いたいことを文法のルールを使って言ってみる。
- ⑥ ボキャブラリー
  - ・パッシブ語彙とアクティブ語彙を分けて学習する。
  - ・例文を聞いたり音読したりしながら習得する。
  - ・定期的に繰り返しながら定着させる。

3. 佐脇の私見

- (1) 文法、コアイメージ、難解な文構造については、日本語も使って説明する。
  - (例) to 不定詞 ⇒ 足りない動作情報を後から、to を使って追加している。
  - (例) 現在完了 ⇒ 過去から今までのことを抱え (have) て、現在の目線から動作や状態 (動詞の過去分詞) を述べている。
  - (例) 「こっち来て」に対して、「今、行くよ」は I'm coming. 相手目線の come
  - (例) 「あなたは思う？」は、What do you think? How ではない。

(2) 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

その前に、主体的に母国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

(3) コミュニケーションを図るためには、音声指導が重要となる。

① 大きな困りは、相手の英語が聞き取れないこと。(特にネイティブの英語)

**自分が出せない音は聞き取れない⇒自分が出せる音は聞き取れる。**

② リスニング力を高めるためには、正しい発音で英語を発する必要がある。

③ 音声指導はコミュニケーションを図るための基礎固め

・発音記号は扱う。単語の発音練習で発音記号も見て発音させる程度で可。

④ 先生が、生徒に語ってほしい音声に関すること

・ネイティブは複式呼吸を基本に、チャンクを1つの単語のように言う。

・英語を話す時は、1オクターブ低音で話す気持ちで。

・強く発音される部分は大きく長めに。他は弱くすばやく発音される。

・子音で終わる語がある。like, music, get, it

・子音が続くことがある。school, street, books

・子音で終わる語＋母音で始まる語は、連結しやすい。get up, first of all

・アクセントのない母音はあいまい母音になりやすい。agree, machine

・まずは、言語活動や日常生活で頻繁に使う発音から指導を徹底する。

I think～. Because～. This is～. 数字、曜日、月の名前

・日本語にはない音の指導。様々な母音。th, f, v, r, l, y などの音。

・単語の発音を正しく修正することで、聞こえる音が多くなる。

・スピーキング活動においても正しい発音を心がけることが望ましいが、最初はあまりこだわりすぎないようにする。発音よりも話そうとする姿勢を優先してよい。

(4) 英語の力を確実に伸ばす王道の学習方法は、「徹底音読」である。

① 教材は、教科書(基本文・本文)、放送問題原稿、生徒自身が作った英文。

英文の内容(チャンク理解、語彙、文法)を理解してしまっている英文。

② 音声はネイティブの標準的な音声を使用。まずは、何度も繰り返し聴く。

③ 「文字・意味・音」を同時に意識しながら、ネイティブの音声をまねて、  
リピーティング、マンブリング、オーバーラッピングを十分に繰り返す。

感情を込めながら、大声でスラスラ読めるようになるまで繰り返す。

自動化する(脳に英語の回路ができる)まで繰り返すのが理想である。

【注意】最初から暗唱を目指さない。発音への意識が非常に薄くなる。

④ 徹底的に反復する音読は、4技能すべての力を伸ばすことになる。

國弘正雄氏、シュリーマンの実例がある。

(5) 徹底音読を実際にどのように取り入れるか、授業展開を考えてみました。

- ① 5分 **前時の本文音読** ・各自で2分音読⇒ペアで音読を聞かせ合う 3分
- ② 10分 **前時内容の言語活動** (前時内容ワークブックの英作文問題も使える)
- ③ 1分 **振り返り**
- ④ 5分 **帯活動** (英語の歌)
- ⑤ 15分 **新出事項の学習** (基本文、語彙、本文の概要把握、リスニング)
- ⑥ 5分 **本文の理解** (チャンクで区切りながら、音読、意味確認。文法の理解)
- ⑦ 1分 **日本語訳を1回音読**
- ⑧ 8分 **リスニング数回・音読10回**

(リピート⇒マンブリング⇒オーバーラッピング)

- ⑨ 15分 **家庭学習** (音読10回以上、音読筆写1回以上)

※音読回数を増やすためには、家庭学習に頼るしかない。

※次の授業におけるペアで音読を聞かせ合う活動や言語活動で活躍するために頑張ることを期待したい。

(6) なぜ日本人は英語が苦手な人が多いのか？

- ① 英語ができなくても日常生活で困らないから。
  - ・多くの情報を日本語で得ることができる。
  - ・日常生活で英語を使う機会も必要性もない。
  - ・仕事で英語力が必要な日本人は1割程度しかいない。
- ② 英語は日本語と最もかけはなれた言語だから。
  - ・使えるようになるには膨大な時間がかかる。2,200時間～5,000時間。
  - ・学校の授業時間だけでは到底無理。

(7) 学校以外でも自主的に勉強をするためには、高いモチベーションが必要となる。

- ① 「なぜ英語を勉強しないといけないのか？」ではなく、  
「なぜ英語を勉強するのか？」という視点で生徒に考えさせる。
  - ・英語の授業、英語の先生が好きだから。(英語教師にできること)
  - ・外国人とコミュニケーションを取れるようになりたいから。
  - ・将来、就きたい仕事が英語を必要とするから。
  - ・英語は世界の人々が共有する大事な言葉だから。(共通語)
  - ・この素晴らしい言葉をマスターすれば幸せになるから。
  - ・グローバルな人間になりたいから。
  - ・インターネット上でも最も使用されている言語だから。
  - ・洋画、洋楽、外国のドラマなどを英語で楽しみたいから。
  - ・ゲームをする際、外国人と素早いやりとりを英語でしたいから。

②「なぜ英語を勉強しないといけないのか？」

- ・高校入試や大学入試で必要だから。
- ・仕事で英語を使う必要になる人は10%程度と言われているが、全員に勉強させてみないと誰が英語を得意になって仕事で使う10%の人になるか予想できない。今は苦手と想着いても、将来、英語を使う必要のある生活や仕事が待っているかもしれない。難しいと言われている数学や理科などの教科でも同じ。誰が科学者等になるかは予想がつかない。基礎レベルは全員が学んでおく必要がある。
- ・大きな戦争で勝った強国の言語が世界的に力を持ち、多くの人間が使う共通語になってしまう。その一つが今は英語である。

(8) 英語学習に対する生徒のモチベーションの高め方

- ・先生が生徒にとって魅力的な存在になる。
- ・生徒の英語力をあげる学習方法を伝授する。
- ・英語を勉強することの魅力的な理由を伝える。
- ・英語を勉強して夢をかなえた人の話をする。
- ・英語の歌、ドラマ、洋楽、ユーチューブ動画等を紹介する。
- ・徹底音読をさせて、英語を得意にさせる。

(9) 英語の学力が2極化しているクラスでの授業

- ・上位層、下位層をそれぞれ刺激する機会を入れる。
- ・個人活動では、レベルに応じた取り組みをさせる。
- ・教科書の音読は誰にとっても有効である。
- ・英語の歌は多くの生徒が喜ぶ。

(カーペンターズ、ビートルズが定番だがお勧め)

(時には、生徒のリクエストに応じる)

(10) 教員に求められる姿勢

- ・生徒の表情をよく見る。
- ・えこひいきをしない。
- ・授業時間を厳守する。(特に終わる時間は10秒くらい早く)
- ・授業の雰囲気をつくる。(級友の発音を茶化さない集団)
- ・魅力的な授業をする。「わかった」「わくわく」「わらい」

(11) 最後に

魅力的な授業方法や学習方法が次々に出てくる時代に突入しています。  
しかし、そのような中でも、「正確な発音で徹底的に反復する音読」は、  
言語習得における王道の学習方法だと信じています。